

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 885

事業名	阿万下町ポンプ運転管理委託		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	都市整備部	管理課		款	土木費・8款
電話	0799 - 37 - 3014		項	河川費・3項	
事業分類	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	河川総務費・1目	
	<input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		なし		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	とにかく「いのち」が一番_【安全】			
	施策目標	住宅や公共施設の災害に対する安全性と、災害に対する市民の意識を高め、自ら身を守る力を育てる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事业	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		低地帯の住居や農地または道路等公共施設を水害から守る。	対象人数(人) 415
	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)		
	低地帯の排水不良の内水を当該排水機場で排除し、安心して住める環境を作る。		
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
地元で排水機場の管理委託をすることで、それぞれ地域の排水形態に合った排水対策が可能になり、地区も住民自らで守っていくということを基本に、目的を達成していくことができる。			
背景、委託根拠	(どのような現状・課題・要望があったか、また委託に至った根拠、他の自治体の動向)		
	低地帯である阿万中西地区は市営住宅の造成により遊水地となる圃場が無くなった。また、下町は阿万バイパスの通過により、本来塩屋地域の排水機場に流れていたものが、道路沿いに流下する。このため、それぞれの排水不良の内水を水路整備と新たな排水機場の整備により排除することが目的であり、地元土地改良区に委託している。		
事業実施主体		<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (中西地区・南淡南部土地改良区)	
事業期間		<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	実績報告書	指標単位 件			
	指標説明 (指標算出方法等)	内水の速やかな排除				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	1	1	1	
	実績値	-	1	1		
	達成度 (%)	-	100.0	100.0	-	
目標値設定の考え方	前年度の実績					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	実績報告書	指標単位 件			
	指標説明 (指標算出方法等)	内水の速やかな排除				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	-	1	1	1	
	実績値	-	1	1		
	達成度 (%)	-	100.0	100.0	-	
目標値設定の考え方	前年度の実績					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	0	500	500	500	
	排水機・堰管理委託料		500	500	500	
	需用費					
	役務費					
	使用料及び賃借料					
	財源 (千円)					
	国					
	県		24,750			
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	0	24,250	500	500	
	人件費(正規職員)[B] (千円)					
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)		20	20	20	
事業量2(事業に要した人数)						
年間経費([A]+[B])	0	24,250	500	500		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.0	58.4	1.2	1.2		
受益者人数(415)1人当り経費(千円)	0.0	58.4	1.2	1.2		
経費に関する補足説明	中西は電気代のみ					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	-	100.0	100.0	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 自然相手の事業であり、その年により台風・大雨の発生について予想がつかず達成度が把握できない。地元へ委託しているため、操作等について、また、行政に対しての苦情がほとんど無い。					自己評価 (5点評価)
						3
有効性	成果指標目標達成度	%	-	100.0	100.0	-
	成果向上率	%	-	-	0.0	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) この事業は、低地帯の地域にとっては無くてはならないものになっている。					自己評価 (5点評価)
						5
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	-	24,250.0	500.0	-
	効率性増減率	%	-	-	102.1	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 経費の節減等に関しては、燃料費の高騰や異常気象による大雨の発生頻度が多くなり、経費が増大する傾向にある。					自己評価 (5点評価)
						4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 必要かつ不可欠なものとなっている。					自己評価 (5点評価)
						5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析					評価グラフ
	<p>現在の地形状況から考えても、この事業は必要不可欠である。管理運営についても、今の地元へ委託するほうが良いと思われる。自らの地区は自らで守る意識を持ってもらわねばならないと思う。</p> <p>現在のところ、宅地のほか農地も絡んでいることもあり、金額的に不足したときは、地元からも多少の経費負担をしてもらう必要があり、今の体制を変える必要は無いと思える。しかし、燃料代や電気代の値上げがこのまま続くようであれば地元と協議する必要があるかもしれない。</p> <p>また、施設には耐用年数があり、新しく施設を更新する時期がくれば、県営・市営を問わず難題となる。</p>					

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	設置後年数経過が少ないので、現状維持として様子を見るが、内水の排水機場への集水効率を上げることでポンプの稼働効率や樋門排水の効率が良くなり、稼働時間の短縮による燃料費等の低減につながる。	同左
(現状維持以外の改善方法)	内水の排水機場への集水効率を上げる。	同左
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面 ポンプの稼働効率や樋門排水の効率があがる。	同左
	コスト面 稼働時間の短縮により燃料費等の低減につながる。	同左
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 低地帯に人が住めなくなり交通も遮断されます。	